

令和6年度第2回いしかり生き物かけはしプラン有識者意見交換会

開催日:令和6年9月30日(月)14時~16時

場 所:石狩市役所2階203会議室

参加者:

北海道大学 松島 肇氏/NPO 法人 EnVision 環境保全事務所 長谷川 理氏

酪農学園大学 立木靖之氏/北海道爬虫両棲類研究会 徳田 龍弘氏

一般社団法人 エゾシカ協会 赤坂 猛氏/株野生生物総合研究所 安細 元啓氏

事務局:

石狩市環境市民部自然保護課

議事録

【事務局】

定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第2回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会を開催します。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会の事務局の石狩市環境市民部自然保護課主査の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。開会に当たりまして、事務局を代表し自然保護課長の板谷より一言ご挨拶を申し上げます。

板谷課長挨拶

本会議は議事録作成のため録音させていただいております。議事録につきましては、完成後、共有させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以降の議事進行につきましては、松島会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします

【松島会長】

それでは、令和6年度第2回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会を開催いたします。議題1、「いしかり生きものかけはし座談会について(開催報告)」です。事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

説明

資料1について

補足

意見として出た内容をもとに資料2で少し反映している

直接、地域戦略に関する意見を聞いた場としては初めての試み

生物多様性に関する関心や興味は依然として薄い

なぜ保全する必要があるのかということがまだまだ浸透していないように感じた

【安細委員】

参加していた石狩市民の方がある程度興味を持った人だと感じた。率直な意見を聞いて新鮮であったが、生物多様性のことについてマニアックすぎてわからないというご意見でした。守るべきものもわからないということだったので、興味深く持てるような話、普及啓発をしていくということが大切なことを感じました。

【長谷川委員】

感想について後日報告などありましたか？

【事務局】

(アンケート共有)

後ほど皆さんにも共有させていただきます。内容としては、第一部でいただいた質問の追加の質問や、再生可能エネルギーについて、ポータルサイトなどの活用についての質問がありました。それだけではなく、生物多様性に直接関わらないイベントなどに生物多様性を組み込む、希少種などを活用した生物多様性カードなどのアイデアもいただきました。あとは環境関係に携わっている方から、環境ベースマップや、ビジネスに生物多様性を組み込んだ体制の構築、野生動物に関することが分かる職員がもう少し増えたらという提案をいただきました。SDGsの前例で、企業が入ることにより知られる機会が増えたことを受け、生物多様性もそういった取り組みがあれば広がるのではというご意見もありました。

【長谷川委員】

ありがとうございました。地域戦略の内容について、どのような項目を盛り込んでほしいというような質問は少なかったですね。地域戦略を策定したのちに、どんな活動に取り組んでほしいのかといった質問はよかったと思いますが、もう少し参加者が多いとよかったですね。

【事務局】

今年度はアカモズやヒキガエルなど、石狩市内全域の回覧に載せていましたが、見る人が限られま
すし、インスタもまだまだ弱いように感じるご意見を受けました。

【長谷川委員】

今回の座談会の位置づけが微妙だったと思います。第一部のオンライン参加の人たちは、参加時間があまり短いように感じました。オンライン参加の人たちも、そう感じたと思います。今回の座談会は、地域戦略に関する意見交換の場だったので、パブコメのように市民意見を聞ける場にした方がよかったです。地域戦略の内容を紹介するにしても、今後の展望を聞くとしても、中途半端だったと感じた。地域戦略の策定をアピールしたいなら、もっと多くの市民が参加しやすいフォーラム形式にして、しっかり地域戦略のお披露目をした方が良いと思います。安細さんのお話で、知らない昆虫の名前がたくさん出てきたのを聞いて、今回の参加者は圧倒されていたかと思います。あの場だけだともったいないので、ぜひ多くの人を集めて、他にも松島会長や徳田さんらにも基調講演をいただきながら、地域戦略を紹介する場の設定をお願いしたい。

【事務局】

座談会につきましては、今年度も2月にもう一度企画しております。松島先生にもお願いをしております、グリーンインフラについて浜益のことを話していただきます。そのお話の前段になりますが、石狩市での取り組みについて紹介する予定です。座談会は過去3回開催しておりますが、引き続き生物多様性について知ってもらうための取り組みは続けていきます。

【長谷川委員】

地域戦略の話だけを議論する場と別に、アカモズやオオムラサキの話を入れれば札幌からでも参加したい人はたくさんいると思う。議論しやすい環境、意見を聞く環境をつくるなら、座談会をベースにする。できるだけ多くの人に宣伝したいならば、キャッチーなテーマを入れていき、シンポジウムやフォーラム形式にするのが良いと思います。

【松島会長】

感想を見させていただくと、まだまだ生物多様性について伝わっていない印象を受けました。確かに理解しがたい概念で、自分の生活に直結しているのか、役に立つのか、大事なのかということが伝わっていないですね。お披露目も兼ねて、生物多様性って何だろう、なぜ必要なのかということを市民に知っていただくようなイベントがあるとよいと思いました。そのあとに、このマニアックな戦略の目標や課題をお知らせする段階があると思います。札幌市のウェブサイトを見ていると、かなり子ども向けの生物多様性とは？が分かりやすくなっています。石狩でも地域戦略の説明や、生物多様性とは？のリンクをはるだけではなくて、勉強的に提示できるとよいと思います。

子どもの意見でも出ていましたが、なぜ守らないとだめなのかという理由は、よくある生態系サービスとの関係をわかりやすく表現できてればよいなと思います。参考になるものはいろいろあるかと思いますので。

【長谷川委員】

理由がなくても、遺跡や音楽と同じように好きだから・愛着があるから守る、生きるのに必ず必要ではないけれど、多くの人が大事だと思って、守りたいというものになってほしいですね。理屈ではない石狩の良さを紹介していくのが良いと思います。

【松島会長】

とても好きな人、マニアの人だけが知っていて、好きにやればいいよということになると、広がってなくて、多様性の低下を困らないと社会変革や行動変容につながらない。今関心がない人達をどう関心を持ってもらい、行動に移してもらおうかということを自治体レベルで考えていけるとよいかと思います。

【安細委員】

今回の参加者の多くが旧石狩市域、石狩浜で活動している方が中心であったということなのですが、生物多様性に重心を置くと浜益区・厚田区への関心が低く、温度差がある。それらを含めて紹介していける場が必要だと感じました。

【松島会長】

会場も旧石狩市域なので、厚田浜益でも開催するのもよいかもしれません。それでは議題2に移り

たいと思います。

【事務局】

資料2について(説明)

座談会する前に紹介した修正したものから、さらにご意見を反映した

修正点

- ・地図の縮尺(表紙/P19/P40)
- ・アカモズの説明(第2章3節/3章2節)
- ・ダニ類の追記(第3章4節)
- ・重要地域➡注目地域
- ・教育機関の追記(第6章1節 P38)
- ・エゾシカライトセンサデータの整理(別添資料⑥/P46-47)
- ・有識者意見交換会の日程と内容整理(別添資料⑨/P52)
- ・座談会の開催(別添資料⑩/P54)

そのほか、最新の修正として

- ・必要に応じたアクション～ ➡ 削)必要に応じた (第4章4節)
- ・再生プロジェクトの内容修正
- ・エゾシカデータの追加
- ・環境審議会追加

について加筆する予定。

【松島会長】

本日で最後ですので、気になるところから質問したいと思います。事前に目を通していただいたかと思うのですが、ご指摘・ご意見お寄せにいただきたいと思います。

先に第4章4-4、20 ページにある「必要に応じてアクションプランの策定」という目標から、「必要に応じて」を削除するということなのですが、残りの目指す姿にはアクションプランという言葉が入っていませんが、4章4-1にある基本方針に「アクションプランを策定し」とあるので、各項目では明記しないという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

より緊急性、特別的な対応が必要な種、地域についてアクションプランを定めるということで目標に設定しました。環境学習や企業への対応については、個別よりも全体的な話になるので、アクションプランとは少し異なるかと考えて明記していません。

【松島会長】

将来的にも必要になることを想定しないということでしょうか。

【事務局】

例えば野生動物との軋轢で言うと、北海道の指針をもとに実施しているのでアクションプランという形にならない、現時点では読めないため明記していません。

【長谷川委員】

「アクションプラン」という名前にするのは、適宜検討が必要かと思います。とはいえ、軋轢に関しても、いずれ個別の対応方針、行動計画が必要になると思います。たとえばヒグマの出没対応だとすると、今は北海道の計画レベルに沿えばよいと思いますが、今後は地方自治体でも個別のガイドラインが必要になるかもしれません。ただ、環境教育や普及啓発については、必ずしもアクションプランの策定といった記載が適当ではないかもしれません。それでも、どの項目についても、個別に具体的な計画を策定するという記載があったほうが良いのではないかと感じました。

【松島会長】

本来、状態目標があって、それに対して行動計画、今回ではアクションプランですが、紐づいていると思っています。ゾーニングについても、あれはアクションプランなのではないでしょうか。

この計画にしても、目標に対して部局にまたがるものは定めることが難しいかもしれないです。自然保護課や他部局と連携してやるところこそ「アクションプラン」の必要性を感じています。なので、今後策定することがあると思います。必ず作るわけではないと思いますが、必要が出たときにその文言がないと作りにくいのではと思います。なので、作れる可能性を残しておきたいです。

アカモズも結局、石狩だけでやるのではなく、全道・全国でやるという話になるものなので、自然資源の活用についても石狩市にあるものをどう利用するかということなので、他の分野においても必要に応じて作るということにしてはどうでしょうか。

【立木委員】

野生動物の軋轢についてですが、今この話題が出ていたので気が付いたのですが、目標の中に情報の整理と把握、連携強化、普及啓発についてありますが、問題が起きたときに計画を立てて行動するという余地がないので、残した方がよいかと思います。将来的に何か問題が発生する可能性はあるだろうと思います。今回の内容だと積極的な感じがしないので、気になりました。

【長谷川委員】

立木委員、松島会長がおっしゃるように、地域戦略というのは各市町村の特徴を出すもの、石狩市の地域戦略ならが石狩市の生物多様性保全の特徴を出すものです。もっと石狩市の特徴を第3章の現状・課題の説明の中でも出してほしいです。たとえば外来種にしても、特定外来種だからといって全てを均一に対策するのではなく、石狩市内の外来種の生息状況に応じて、問題が大きな種、たとえばヒキガエルについての対策を強調して記載します。同様に、再生可能エネルギーに関しても、もっと石狩市の実情にあわせた記載をすべきです。風力発電の導入が多い自治体もあれば、メガソーラーの増加が問題になっている自治体もあり、問題は様々なので、市町村ごとに、条例やガイドラインを策定しています。石狩市での現状の課題、問題点は、バイオ発電でもソーラー発電でもなくて、明らかに風力発電です。環境審議会でも何年にもわたって、風力発電の建設について話し合われています。それを踏まえて、第5章でも、「必要に応じてアクションプランを策定する」という個別の行動計画を作ることを、風力発電施設に関しても記載すべきだと思います。

【事務局】

石狩浜のアクションプランのイメージがあり、アクションプランの策定がかなりきっちりとした整備

を進める必要があると考えていました。先ほどの話をまとめると、対策が必要になった時に、どういった事業をして計画を立てる、対応をするということが現状では明記していないので、温度差があるように感じるのは間違いないです。この点については、持ち帰って考えさせていただければと思います。

【松島会長】

アクションプランも今作るわけではないですし、作らない可能性もあります。作る時に残しておきたいです。具体的に石狩浜やアカモズは計画されているのですが、他は必要に応じて…というニュアンスでよいと思います。

【松島会長】

例えば5章1節では必要に応じたアクションプランが出てきているので、「必要に応じた」とって明記するのでよいかと思います。皆様のご意見から、すべてに該当する内容だから1節ずつ書くのではなく、基本方針のところで明記するほうが良いのではという話もありました。個別で書きにくいところもあるかと思います。既に作ることが決まっている種や地域のことは目標にあらかじめ書いて、動物との軋轢などは目指す姿を達成するために行動するアクションプランを必要に応じて作ると書いていただければいいのかと思います。地域戦略自体が市の方向性を書いているものなので、目標に達成しなさそうであれば、達成するための具体的な計画、個別計画をアクションプランとして考え、目標に届くよう行動するという考えでアクションプランの策定を書き込んではどうでしょうか。アカモズや石狩浜のように課題が明確になっているので動き始めるという場合もあるが、そうではないものも今後出てくると思う。それに対して書いてないからできませんでは困る。見込みはなくても、可能性として残しておかないと、やりませんというように読めてしまう。その点を考慮してほしい。

【長谷川委員】

今の話に関連して38ページ6章2節にある進行管理についてですが、記載がざっくりとしているように感じます。PDCA サイクルを進めるとあるが、一体どれくらいの頻度でサイクルをまわすのか。この地域戦略を具体的にいつ、誰がチェックするのかが書かれていません。図中の「plan」の箇所には戦略の見直しとありますが、本来大枠として立てている戦略をもとに常に個別の行動をプランとしての計画するわけです。たまに見直すとか、改訂するのではなく、毎年のように具体プランをたてて、戦略をすすめる。戦略とプランのつながりは、頻繁に確認する必要があると思います。松島会長がおっしゃるように、どの目標に対してもアクションプランは必要であるということが示せる気がします。見直しが2040年と2030年になっていますが、記載内容の改定は数年単位でよいかもしれませんが、せめて一年以一度は地域戦略の進捗状況を確認するということが書かれていないと、2030年まで放ったらかしにするようにも受け取れる。

【松島会長】

座談会を続けていくという話があるが、それもこの進行管理に組み込めるのではないか。

【事務局】

座談会については、環境白書やセンターの活動報告の中で文章的に残すものもあるが、生物多様

性だけの報告がないので、直接報告できる機会ということで設定しています。先ほどのご意見を踏まえて報告としての位置づけもあるので、進行管理に入ってもよい気がしました。

【長谷川委員】

6章2節の「結果や報告については」という記載で、「公表します」とあるが、単に環境白書が毎年発行されているだけで、結果を毎年報告するとは明確に書かれていない。もちろん毎年報告する必要があるし、フォーラムのような形で毎年市民に情報還元しますとか、あるいは検討会や有識者会議を年に一度開催して進捗管理をするなど書いた方がよいと思います。環境白書にも、地域戦略に沿った事業の報告をすることになりますよね。それはよいと思います。

【立木委員】

この進行管理のチェックについては、環境審議会ですということなのではないでしょうか。環境審議会幅広い分野の話をすると思います。この戦略はかなり特化しているので、釧路で自然再生協議のような個別で注視するようなモニタリングする会があるわけではないということではないでしょうか。もう少し前に言うべきことだったと思いますが。

【事務局】

環境審議会については、生物分野ということで松島会長と鳥の関係の方で2名入っております。ただ、地域戦略が多岐にわたるので網羅できていない部分は多くあります。今後の自然保護課としての考えですが、石狩海浜植物保護センターの方向転換を考えています。現在では石狩浜に生育する海浜植物を中心とした普及啓発ですが、それが生物多様性の普及啓発に舵を切る考えで動いています。そこでの事業がこの地域戦略を担っていく方向になればよいかと思っています。現在では保護センターと地域戦略など各所にある審議会や事業がバラバラと動いている状態なので、一本化したい方向でいます。

【立木委員】

であれば、この進行管理もその新規に考えられている担当がするという意味でしょうか。私のイメージとしては、何人かの人が集まって、石狩市の地図を広げてこれを地域戦略の実施している、できていないというチェックする組織がないので、そういった会議はやらないのかということでした。

【長谷川委員】

立木委員がおっしゃるような検討会議のような場はあったほうがよいと思います。環境審議会よりも、もっと具体的に生物多様性保全に対する委員会組織があるとよいと思います。ただ現状は、石狩浜のアクションプランについても検討会があって、石狩海浜植物保護センターの運営委員会もある。そうした既存の検討会での、議論対象を広げて、厚田・浜益区も含めた議論を出来る場、生物多様性保全の関係者が集まって意見を交わす場を継続的に設置できればよいと思います。

【松島会長】

ただ今の論点としては、環境審議会等としている等の部分が大事ですよね。今はないけれどこれから設置する意思はあるというか、そこに期待したいと思っています。

【立木委員】

この等が大きいですよ。

【松島会長】

この部分は大きいと思いますので、頑張ってくださいと思います。

【徳田委員】

外来種対策の 29 ページのアクションプランの内容についてですが、防除を進めていきますとありますが、外来種の対策として大切なのが調査と啓発なのでそこも記載いただけたらと思います。

【長谷川委員】

そうですね。全てにおいて「調査」あるいは「情報の収集や現状把握」、そして「普及啓発」は必要ですね。おっしゃる通りだと思います。

【徳田委員】

その次に情報共有の構築とか、普及啓発の促進がありますが、アクションプランの策定の中に入ってもよいと思います。

【事務局】

徳田委員のご意見のとおり、情報の把握ができて、防除対策の実施から情報共有体制の構築、普及啓発の促進もアクションプランで必要なので追記したいと思います。

【長谷川委員】

順番を入れ替えてもよいのかもしれませんが。まず情報収集や情報体制の構築、次に対策、そして普及啓発が来て、最後に、それらをより具体的に計画するために、必要に応じてアクションプランを策定する。この記載は後ろに来てよいのかもしれませんが。

【松島会長】

大きな改定ではないので、修正いただけるといいですね。別ですが、函館のアズマヒキガエルの保全のような要望もありますね。

【徳田委員】

経緯を踏まえると、かなり昔から函館にはアズマヒキガエルが入っており、保全活動をしている人もいました。遺伝子の結果、外来種であることは分かったが、防除に舵が切れない状態。保全するという話にはならないです。やるとしたら、域外保全しかないと思う。トノサマガエルなども分布が飛び地でできたりしているのを見ると、人の手によって分散されているので普及啓発は必要だと思っています。

【長谷川委員】

やはり 5-3 の軋轢のパートにもアクションプランの策定が必要そうですね。情報把握と、防除対策、普及啓発、そしてアクションプランの策定とある方がよいと思います。

【松島会長】

そうですね。ただ 2030 年に見直しとなりますが、今の直近の問題ではないので、この時に書くということでもよいかもしれません。

【徳田委員】

やれなかったことをまとめておけば、2030 年の時に何を次に書き込めるか目安になるのではないのでしょうか。

【松島会長】

北海道では 2030 年までに保護区 30%という目標をかかげていますが、現状15%なので非常に問題だと思っています。

【徳田委員】

2030 年から見直しをするのでしょうか。それとも 2030 年からスタートするように準備するのでしょうか。

【事務局】

環境基本計画と同じようにするので、2030 年からの10年間の目標となるので、それに合わせて 2029 年度に話をする事になると思います。生物多様性の発信していく動きについては、次年度から少し動いていき、5年計画の構想となるので、次年度の改定については石狩市全域の話にもなりますので、その部分も大きく含まれることになるかもしれません。普及啓発や、他施設を含めた話もできるのではという構想もあります。構想の中には、保護区の拡大も考えておりますので、30by30 にも絡められるのではと思っています。

【長谷川委員】

保護区について。第5章1節にも記載がありますが、「拡充・拡大」の意味が分かりにくいのですが、具体的に書いた方が良いのではと思います。

【事務局】

拡大は面積を大きくすることで、拡充については例えば国定公園を国立公園に上げるような意味で書きました。

【長谷川委員】

分かりました。そうした意味を丁寧に書くとよいと思います。本戦略には、30by30 についても、細かい数値は出ていませんが、記載されています。国の指針としても、保護区の面積を評価指針としています。本地域戦略でも、保護区の面積を現状より増やしますということを書いてはどうですか。面積を増やすことだけが重要ではありませんが、目標を掲げるとか、地域戦略の見直しの際に達成度の指標にしやすいのでは？今は保護区としてはこれくらいの面積がある、地域戦略に沿って自然共生サイトとして登録したことで、面積がこれくらいに増えたなどと、比較しやすいのではと思います。

【松島会長】

数値があったほうが、わかりやすいと思います。国への貢献度合いもわかります。30%は国として目標はあるが、市として30%目指すかはわからないが、現状がどのくらいあって、2030年までに石狩市として増えているかどうかわかりやすいのではと思います。

【事務局】

別の面積ではあるが、資料を共有させていただきます。2030年までに石狩浜海浜植物等保護地区の拡大目標面積と現状を比較したものがあります。二段階的に考えていて、事務局が独断で保護区に指定できそうな石狩市有地と、そのほかの所管する面積についてそれぞれ合計を出して、5年間で拡大できそうな保護区的面積を出しています。

【長谷川委員】

石狩市内にある国定公園や保護林など、既存の保護区的面積や、割合が示せるとよいと思います。

【松島会長】

石狩市はどの程度保護区を持っていて、2030年までに石狩市でどのくらい増やせるのか出せるとよい。

【長谷川委員】

自然共生サイトとして登録できそうな場所の面積と、すでに保護区として扱われる場所の面積を数値化することはとても良いと思います。そして、今後自然共生サイトに登録できそうな場所を地図として可視化することで、たとえば対象他の所有者や管理者への交渉材料にもできるのではないですか。

【松島会長】

2030年までに洗い出しをして、目標までいけてなかったら、次に2040年までにどうするのかにつながるのではないかと。

【長谷川委員】

市町村レベルで、しっかりOECEMの拡大戦略について計画立てているところはほとんどないと思うので、先進的な取組になると思います。

【松島会長】

北海道のOECEMの自然共生サイトは北大の敷地です。まだ進んでいないです。

【徳田委員】

%で表示してもらえの方が分かりやすいです。

【松島会長】

北海道も目標値は数値化していません。

【長谷川委員】

国としては30%が目標ですが、都道府県や市町村ごとにみるとすでに30%を超えているところはたくさんあります。石狩市としての数値目標を立てることも大事ですし、現在保護されていないが貴重な自然が残る場所を洗い出すことはとても重要だと思います。

【安細委員】

9ページの課題について、339行目にある無数に～という湿地の表現について、22ページでは無数に点在するとありますが、本当にあるのかという部分が気になりました。点在する小さな湿地でよいのではと思いました。

あと11ページにある394行目のオオムラサキについて、飼育販売のための乱獲とあるが、乱獲まで行くのかなと思いました。収集のための採取とか言葉の表現でもよいのではと思いました。

7ページでの遠浅の～という部分でサケが～という表現の方が、サケ・ニシンと読めなくもないので修正したほうが良いかなと思います。

1ページ84行目でも、平成20年とありますが、西暦が抜けているので入れたほうが良いと思います。

【長谷川委員】

安細さんの指摘と同様に、5ページの記載でも湿地がたくさんあるように読める。実際には石狩市内に湿地はかなり少ないと思う。他の景観要素に比べて湿地環境は少ない、だからこそ重要であり、湿地再生等の取組が必要な環境だと思う。そういう表現にしてほしい。

84行の上で、8つの分野を入れていますが、本地域戦略内ではこの項目に沿って記載しているわけではないので、紛らわしい。この記載は無くても意味は通じると思います。混乱されるだけなので、もう少し簡略するか、削除してもよいと思います。

【安細委員】

もともとあった環境から減少しているのが湿地環境だと思うので、少なくなっていると思う。

【長谷川委員】

33ページの、再生可能エネルギーについて。ぜひ環境審議会でも議論・検討いただきたい。石狩市の地域的な特徴として、風力発電施設の建設と生物多様性保全の両立は大きなテーマだと思う。5.6で掲げる「再生可能エネルギーの導入と生物多様性との共生うんぬん」はよいと思うが、その中身として、現在のガイドラインやゾーニングに基づいて適地誘導するにとどまっている。ここも、5.2希少種や5.3外来種の項のように、さらなる情報収集のための調査、対策、そして普及啓発について書くべきではないか。たとえば希少種についても全ての種を対象に調査するとは書いてない。いくつかある「開発行為」のなかでも、これまでずっと議論になってきた風力発電について、すでに多くの風車が立つ中で、生物多様性や希少種への影響に関する調査をする、近年追加された調査や報告書のデータを集めることができるのではないか。生物多様性に関する情報を得るために、独自にも調査をすること、そして具体的な普及啓発をしていくことが大切である、ということまで書いた方がよいと思う。それらを生かして、ゾーニングの情報を更新すると、位置づけてほしい。たとえば風力発電の事業者は、事業ごとの調査しかない。誰も累積影響評価や広域の影響評価はしない。どこま

での規模で調査ができるかわからないが、生物多様性の保全のための地域戦略なのだから、そうした情報収集や普及啓発に努める姿勢は示すべきだと思う。

関連して3.6について。ここは課題や問題点を洗い出して5章につなげる箇所なので、問題点をもっと具体的に明らかにした方がいい。現在は風力発電の影響について全く具体的に記載されていない。気候変動対策として再生可能エネルギーの導入が必要と書くのはわかる。生物多様性の保全にとって、気候変動対策は重要だ。ただ一方で、生物多様性の保全のための風力問題はしっかり考えないといけない。石狩市では、過去にゾーニングをやっているのだから、まずそれをしっかり説明する。ただし現状ではそのゾーニング計画を適地誘導にはうまく活用しきれていないと思う。それを課題として書くべきではないか。石狩市では、ここ十何年間も風車の話をしている。課題や問題点として書いてないのはおかしい。太陽光発電の問題は、今後は増える可能性はあるが、今の段階では釧路湿原周辺の自治体のように問題の中心ではない。今後気にはした方がいいと思うレベルではある。石狩市で問題となっている大きなテーマは風力発電なので、ここではちゃんと記載しないとダメだと思う。

【事務局】

風車と限定するか、開発とするのかは今までも何度か文章に書いてきている。石狩市としての意見として書いているので、今までも風車だけの原因かどうかという議論があるため、開発として表現していることもある。気候変動対策としての再生可能エネルギーの導入もしているのだから、ちぐはぐにならないようにしたい。

【長谷川委員】

べつにいきなり風車を規制しろと書いて欲しいと言っているわけではない。生物多様性保全のための対策としては適地誘導でよいと思っている。全ての開発行為や再生可能エネルギーの導入を制限するわけではないので、矛盾しないのでは。そして、せめて生物多様性に関する調査と普及啓発については書いてほしい。そこまで他の記載とずれるとは思っていない。生物多様性の保全の観点からは、希少種保全にしろ外来種対策にしろ、そして開発行為に対しても、必要な調査、普及啓発については必要だと思う。

【事務局】

風車による影響なのか、人為的な開発ということなのか表現もある。

【長谷川委員】

もちろん生物多様性に影響する要因は特定できないことも、複数にまたがることもある。必ず全て風車が悪いとは言っていない。しかし、石狩市では風力発電について要因の一つとして想定しないわけにはいかない。開発行為全般として総括するような表現なら、国の戦略でも道の地域計画でもすでに書いてある。しかし石狩市として地域戦略を策定する価値は、しっかり石狩市の地域的な問題に取り組むことにある。その一つとして、風力発電と向かいあうことで地域性が出せると思う。風力発電の問題をちゃんと取り挙げないと、これまで環境審議会や議会等でもずっと議題としてあがってきたのに、全く問題意識を持っていないようにとられる。もし、風力発電施設の乱立を規制する・抑制するようなアクションプランや条例の策定を進めるといったところまで踏み込んで記載できるならぜひそう書いてほしいが、さすがにそこまでは現段階の地域戦略では書けないと思う。それは

やむをえない。しかし課題や問題点をしっかり認識し、そのために調査をしたり普及啓発したりすることは、必要ではないか。

【徳田委員】

対策ごとに齟齬ができるのであれば、具体的に適地誘導等の対策に書けるのかなと思う。

【松島会長】

対策の話は5-6で、すでにそこでは適地誘導がもう書いてある。

【事務局】

開発の前後をどうなっているか、生物多様性が減っていないか市で把握することが必要なのではという提案かと思う。現状として調査区エリアに開発された部分もあるので、それをしっかり明記するかということかと理解した。

【松島会長】

野鳥もしているのか。

【事務局】

今のところ植物のみ調査エリアとしている場所もある。

【長谷川委員】

繰り返すが、希少種等については、調査をして、普及啓発をして、対応が必要であればアクションプランを定めるという流れになっている。その流れと同じように、風車や開発行為についても同じようにすればよいではないか。たしかに風力発電だけに限定して書くと、他の開発行為、たとえば宅地造成とかリゾート開発とか、太陽光パネルとか、が出てきたときに対応できないかもしれないので、「開発行為」と表現しておく箇所があってもよいかもしれない。ただし、風力発電に関しては長年にわたって問題視され議論もしているので、現状と課題を具体的にしっかり書いてほしい。

【事務局】

市として脱炭素先行地域として選ばれている中で、再エネを否定はできない。

【長谷川委員】

何度も言うが、再エネを否定するような記載は求めている。脱炭素先行地域だからこそ、しっかり適地誘導をしながら、再エネを進めると強調すれば良いと思う。むしろそれが売りになると思う。生物多様性保全に配慮しながら、脱炭素を促進すればよいだろう。

【事務局】

座談会で鳥がいなくなった影響は風車だという発言があった。昆虫が少なくなったからではないのか。断定できるものではないのか。

【長谷川委員】

もちろん断定はできない。風車の影響かもしれないし、地球温暖化によって昆虫が減ったとか、そういう理由かもしれない。風車にしたって、ちゃんと調査をすれば、鳥にとって影響の強いものもあれば、たいして影響がないものもあるかもしれない。

【事務局】

風発ができたから鳥がいなくなったという意見があった。

【徳田委員】

風発が鳥類へ影響になっているのは、オジロワシやオオワシなど希少な大型の鳥への影響だと思う。そのルートを外したら、適地誘導したら影響は減ると思っている。

【長谷川委員】

実際に大型の希少鳥類に影響を与えているというデータもある。だから無視はできない。ただし石狩市内の風力発電が現時点でどのくらい影響を与えているのかはわからない。他の要因と比べても影響が大きいのか小さいのかも、それは調査が必要。もしいた影響がないのであれば、それをしっかり確認したうえで導入可能な場所の選定を進めていけばよいと思う。風車以外の影響だと考えられるのであれば、その要因について対策をすればよいと思う。

【松島会長】

3.6 で再エネによる影響は最小限にするとある。長谷川委員の意見については、再エネによる影響を与えられているという一般的なものではなく、風発の注目が石狩は大きく、地域性として風発ということを書いた方がよいという考えかと思えます。具体的な部分で、5-6 では風発のことを書いてある。逆によくここまで書いたと思っている。さらに、石狩市として事業者だけではなく、石狩市独自の自然環境調査を進めるということを書くではどうかというご指摘です。

【長谷川委員】

既存の情報を事業者等に提供するだけでなく、もう少し自然環境調査をすること、石狩市としてもさらにデータを得ていくような書き方はできないか。

【松島会長】

モニタリングについて、調査を進めるという部分はなかったか。市としてデータがないから調査をしていくということを他のところで書いていなかったか。

【事務局】

こちらのイメージとして、石狩市の既存のデータや、希少種のモニタリングのデータを活用していくことであった。今のご意見としては網羅的に調査を積極的にしていくということか。

【松島会長】

そもそもデータとして石狩市の状況を把握するためにとるということは必要。悪い結果として、提出されたデータが事業者任せだと、データを変えていてもわからない。定期的に状況をもう少し把握していたら、そういった状況は防げる。石狩市としてデータをとるような体制を書き込んではどう

か。定期的にやっていたら、影響について評価することができる。

【徳田委員】

せっかくポータルサイトなどもあるので、鳥のデータなど市民から得て、変化が分かる情報の集め方もあると思う。

【松島会長】

予算が取れる、取れないということもあるので、市民調査のデータを活用してということもあるのではと思う。それが市民協働だとは思う。今回書けないかもしれないが、そういったニュアンスを入れてもらうことはできないだろうか。

【事務局】

5-7 で書いてある部分を膨らませて、市民と一緒に調査をしてデータを得ていくような形をとるとい部分膨らませていけたらと思う。

【徳田委員】

その仕組みを活用して市民とデータをとるとい形になればと思う。せっかくカエル調査の結果が出ていないので出してほしい。そうすると提供したくなる。

【事務局】

今後、そういったサイトの整理がうまくできていないので、今後そういった整備も生物多様性の発信業務に加えていく考えはある。今の保護センターは現地に行く必要性もあるが、オンラインの活用という環境整備も必要と考えている。

【長谷川委員】

それは地域戦略の活用にもなると思う。自前で調査予算を獲得して事業にすることにしたいが、全て石狩市だけでやるのは大変だと思う。5-7 である事業者との協力については、資金や労力面での協力という意味で書いていると思うが、事業者からの情報提供や、データ提供といった協力もあると思う。そういった事業者もいると思う。

【安細委員】

5-6 の再エネについて、1053 行で可能な限り事後の調査を求めるといので、情報を石狩市に集約できるようになると思う。業者の中ではそれをデータベースとして使わせてもらえるようにうたえられると思う。石狩市でモニタリングはできないかもしれないが、事後調査については大体している事業が多い。公表されているかはわからない。その情報を何にするかはわからないが、そういったデータをどう使えるかわからないが、環境省とかには報告しているのではと思う。市民団体と同じように事業者からもらっていくと蓄積はできてくると思う。

【松島会長】

事後評価はやらなきゃいけないことになっている。そういった活用は続けたほうがいい。

【長谷川委員】

P52 検討経過としてまとまっているように、この経緯をホームページ上に、一覧で見られるように対応してほしい。有識者意見交換会だけでなく、座談会やパブコメの意見、その対応など、全て同じページにまとめてほしい。

それから石狩市の地域戦略としては、海岸だけでなく、「海」についても入れてほしい。これは座談会のときにも意見したが、取り入れられていない。外洋まではさすがに対応が難しいとは思いつ、洋上は、市町村の管轄する行政範囲ではないのはわかる。それでも、海の生き物、石狩湾の生き物についても、保全のために情報収集したり普及啓発したりはできると思う。ぜひ書き加えてほしい。石狩湾の生物多様性を保全するのは、石狩市の重要な任務だと思う。

【松島会長】

道のほうも入っていなかったもので、入れてもらうようにした。石狩湾についても文言だけは入っている。行政区域の範囲はあるが、海に面している自治体で、海の生き物は非常に重要。海の中の多様性も大切である。データが少ないのはわかる。

【長谷川委員】

勝手に海洋保護区とかにはできないかもしれないので、本戦略の内容として書くとするなら、まずは海の生き物についてのデータを集めるところから始めればよい。調査だけでなく、関係機関や研究者から情報を集めるとか。他のページには、ニシンやサケの話も出てくるし、トドにも言及している。海の生態系、生物多様性の保全のためにできることも、文言としても入れてほしい。

【松島会長】

アクションプランを定めるのは大変だと思うが、多様性の面から表現してほしい。それを検討会の意見として出しておきたい。

長期にわたりご意見いただきありがとうございます。今までのご意見について採用するかどうかについて、修正するか、対応するかについて、見える形にして、返答していただきたい。それでは事務局にお返しします。

【事務局】

長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。今回の会議については、議事録を作成後、皆様に共有させていただきます。ありがとうございました。